

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 8 月 29 日現在

機関番号：32711

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2011～2016

課題番号：23530200

研究課題名(和文)近代日本のグローバル化と都市間交流の基礎的研究～国際港都横浜とアメリカ

研究課題名(英文)Fundamental study on globalization and intercity exchange in contemporary Japan

研究代表者

大西 比呂志(Onishi, Hiroshi)

フェリス女学院大学・国際交流学部・教授

研究者番号：70201978

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、国際港都横浜とアメリカとの戦前戦後にわたる国際交流史を通して、近代日本のグローバル化の変容を明らかにすることを目的とした。横浜とアメリカ西海岸地方の諸都市との民間交流、また日系アメリカ人、およびアメリカ系日本人という横浜の外国人社会が持つ多様な国籍の人々の日米往来の軌跡を対象とした。

本研究では多数の関係者にインタビューし、日本国内、アメリカ各地で資料収集を行った。これらを通して横浜とアメリカとの間で、戦後占領期の準戦争状態からの復興期に民間交流が国家関係の回復に大きく貢献している事例を多数見出すことができた。民間交流の重要性と意義を、横浜を事例にある程度明らかにできたと思う。

研究成果の概要(英文)：This research aimed to clarify the transformation of the globalization of modern Japan through the history of international exchange between Yokohama and the United States. Main objects in this research are international relations between Yokohama and the cities in the west coast region of the United States and people such as Japanese Americans and American Japanese. In this research, I interviewed many stakeholders and gathered data in Japan and the United States. Through these, it would be possible to find many cases where Yokohama and the United States contributed greatly to private relations during the reconstruction period from the war situation in the postwar occupied period. I think that the importance and significance of private-sector exchanges could be clarified to some extent in Yokohama as examples.

研究分野：政治学政治史

キーワード：横浜 アメリカ 国際交流 戦時占領期

1. 研究開始当初の背景

近代都市の「国際性」の形成過程の検証は都市の未来像を構想する上で重要であるが、そうした研究は少ない(佐々木雅幸『創造都市への挑戦』岩波書店、2006年)。これは従来の日本の国際関係史研究が、主に国家を中心とする対外関係・外交史が中心であったこと、また都市=自治体とみなし、自治体の政策としての渉外関係に研究の偏りがあったことが要因として考えられる。

都市を自治体、様々な団体、企業、学校、個人からなる民間セクターの集合と捉え、また外部関係=都市間関係と、内部における外国人社会の生成の相互作用として都市の国際化を捉えることは、これまでの研究には無かった視点であった。

特に本研究では、日本で最も典型的な国際都市として発展してきた横浜市と、太平洋を挟んで交流が深いアメリカ西海岸諸都市(ロサンゼルス、サンフランシスコ、サンジェゴ、シアトルなど)との関係を事例の中心にすえて、日本の大都市が海外諸都市とどのように国際的な都市間ネットワークを形成し、またこれに対応する都市の国際的機能を獲得していったのかを明らかにしようとした。横浜は日本の国際化を検討する上で、最適の対象である。

ただし、意外なことに欧米系の外国人社会の研究は、華僑などの中国人社会の研究に比して大きく立ち遅れている。本研究では、中国との関係は対象から除外しアメリカとの関係に絞った。横浜を通して、アメリカとの関係を国家レベルで無く、民間レベルの多様な関係で歴史的に考察することは、研究史的に空白を埋める重要な作業であった。

2. 研究の目的

本研究の学術的特徴の第1は、都市に視点を置いた国際交流というアプローチである。グローバルゼーションという国際的影響が国内末端にまで波及する今日、都市も世界情勢の変化に対する自己革新を要請されており、その際重要な担い手は国家による外交だけではなく、自治体政府、市民、企業・学校など各種団体、非政府組織など多様な主体が存在し、これらによる国際交流は大きな役割を果たしている(NIRAほか編『越境時代の文化都市論』日本経済評論社、2006年)。本研究では、国際都市をこれら多様な主体が集積する場として捉え、自治体や民間組織、個人に注目して国家間外交とは次元の異なる国際関係=国際交流の側面を明らかにする。第2に、19世紀から20世紀に日本が欧米の国際秩序に組み込まれる中で都市そのものが国際化し、同時に新たな国際関係を形成していったように、都市そのものの国際化と都市の対外関係という都市の内部と外部の相互に影響し合う2つ変化、つまり都市の国際化とグローバルなネットワークの形成への着目である。

3. 研究の方法

本研究は、各都市の対外関係に関する基礎資料(自治体政府、民間団体の公文書・記録、関係者の個人文書など)の調査収集、関係者へのインタビューなどが研究計画の中心的な活動となる。まず、横浜市国際政策室、横浜国際観光コンベンションビューローなどの調査を行い、自治体横浜の国際政策、友好都市などの自治体外交、民間団体への交流支援、経済技術提携、人材交換事業などについて、文書資料の調査および統計データの収集を行った。また横浜開港資料館、海外移住資料館、外務省外交史料館など国内機関において歴史的な文書の調査を行った。初年度は横浜と最も関係の深いアメリカ西海岸諸都市の1つのロサンゼルスで資料調査と収集を行った。次年度以降は国内調査と並行して、サンフランシスコ、サンジェゴ、シアトルの各都市で、自治体公文書館、大学文書館、公共図書館での調査、個人への聞き取り調査を行った。

また横浜市に1901年から2000年まで存在したインターナショナル・スクールであるセントジョセフカレッジ(以下、SJC、横浜市中区山手)は、横浜の外国人社会の子弟が通った学校として有名である。そのOBたちへ同窓会組織を通じてインタビューを行い、所蔵資料を収集するとともに、学校の経営母体シャミナード修道院(東京都)のアーカイブズ所蔵資料の調査を行った。

また横浜の国際交流史で、日本近現代史としても顕著な特徴を持つ占領研究の一環として、日系アメリカ人への調査も行った。横浜は日本占領の拠点であり、ここにアメリカ移民の2世が来日し占領行政に通訳や翻訳などの情報活動に従事した事例がある。さらに戦前に横浜に在住したアメリカ人が再び占領軍要員として来日して同様の業務に従事した事例もある。本研究ではそうした複数の個人へのインタビューと関係資料の調査も行った。

4. 研究成果

本研究として得られた成果としては、以下の～に示したオーラルヒストリー記録と関連資料の収集である。これらは、ほとんどこれまで日本では知られていない資料であり、一部は、本報告書〔雑誌論文〕で紹介しているほか、横浜開港資料館(横浜市中区)で公開しているものもある。

研究成果として得られた知見として、〔雑誌論文〕(計8件)を以下に掲げたが、都市の国際化においては、(A)自治体と(B)民間ベースの2つのチャンネルがあり、それぞれ歴史的な変化を伴って形成されていることである。

(A)横浜を事例とした自治体ベースの国際化については、論文で明らかにしたが、要点は、アメリカによる日本占領の拠点であった横浜の対外関係は占領軍との「渉外」か

ら始まり、基地司令部などのアメリカ主導のもと、アメリカ西海岸を中心とする諸都市との経済連携へと発展した。

しかし高度経済成長とアジア情勢の激動のなか、1963年に登場した飛鳥田革新市政の時代に変化した。ベトナム戦争の泥沼化と、日中間の経済文化交流の活発化を前提に、飛鳥田市政は反アメリカ外交として、日中提携を目指すアジア外交を推進したのである。1973年の横浜での第2回アジア卓球選手権大会の開催とそれに続く横浜上海友好都市協定の締結は、飛鳥田市政による「アジア姉妹都市」構想に基づくもので、自治体外交は、アメリカ中心からアジアへと拡大した。1980年代の後継市政は、こうした流れの上で、市の総合計画に体系的な「国際化政策」「平和都市」構想を策定することになるのである。

(B)横浜を事例とした民間ベースの国際化において、重要な機能を持ったのは、都市内部に形成される外国人社会の存在であること、その外国人社会がどのように構成され機能しているかによって、都市の国際性もまた特色づけられることが判明した。

そして国際的な移動の上に都市で形成された外国人社会の個人や家族にとって、戦争という国家対立が、国籍や民族性におけるトランスナショナルな問題となり、戦時戦後に大きくその状況が変化することが、多くのオーラルヒストリーから明らかとなった。

ただし激動のなかでも、外国人社会を構成する家族や学校・同窓会組織などは、国家間の決定的な断絶を回避し対立を緩衝する機能があり、国際交流の維持において重要であることが考察された。これらの都市内部の外国人社会は、都市の国際化のいわば「変換装置」として機能したことは、SJCについて分析した論文より明らかである。

その要点は、SJCは本来、居留地制度撤廃後日本に住む外国人子弟のためのカソリックによるミッション・スクールとして創設されたが、生徒の多国籍、多宗教の構成、英語とビジネスなど実学的カリキュラムなど、国際港都横浜の特質を反映し、実際はインターナショナル・スクールとして日本社会と国際社会への同化を促す学校として運営された。こうした特質は、とくに占領期から戦後において、日米関係が密接になるなかで、多国籍の子弟の「アメリカ化」、SJCのアメリカンスクール化、都市横浜の「アメリカ化」に結びつくものとなった。SJCに代表される戦前の外国人学校は、広く社会の国際化にも影響をもたらした地域内在の「変換システム」の側面を持ったのである。

現代社会における都市では今後、グローバル化がますます進展し異文化接触と摩擦が高まることが予想される。本研究で収集した「ヨコハマ・ガイジン」(George Lavrov)たちのオーラルヒストリーや回想録は、現代都市が直面する国際化について、歴史的に考察するための基礎資料となると思

われる。

日系二世への聞き取りと資料収集

- ・Hitoshi Sameshima *資料・写真 (Japanese American National Museum)
- ・Kenjiro Akune *資料(YRL Yoneda Papers)
- ・Don Chikara Oka *自伝 This is Don C. Oka story、資料、写真
- ・Yukio Mochizuki *写真
- ・Baldwin Eckel*自伝
- ・Unice N.Sato *自伝 "An Abundant Life The Autobiography of Eunice N. Sato" 2002、資料 (LongBeach Public Library)

来横浜アメリカ人の記録

- ・Mary Kiddie Ruggieri Photo Albums(10冊複写) 自伝"From Japan With Love 1946-1948 A Remarkable memoir of post-war Japan. Told in Letters and Photographs " Portsmouth Publishing San Rafael, California 2007
- ・占領軍兵士たちの手記(刊本)UCLA ほか図書館"Between tedium and terror : a soldier's World War II diary, 1943-45 " Kahn, Sy Myron, "Medic "Sams, Crawford Armonk, N.Y. : M.E. Sharpe, c1998 "Black glasses like Clark Kent : a GI's secret from postwar Japan" Svoboda, Terese "Sheathing the sword : the demilitarisation of Japan" Harries, Meirion, Publisher: Macmillan

Saint Joseph College の卒業生

- ・Jacob Shapiro * "Isaac Shapiro, EDOKKO Growing Up a Foreigner in War Time Japan" ,iUniverse, Inc 2009
- ・Kenneth Suzuki *写真
- ・Tom Haar(2012.9.12,13)*資料 "Catalog for Exhibition: "Karuizawa Dreamscape: photographs " Tom Haar" P. Jan. 2012, Windward Community College, Hawaii
- ・その他 "Yokohama Gaijin: Memoir of a foreigner born in Japan" ,George Lavrov "Hydrangea Waving" Joe Hale, P. Feb. 2012, Infinity Publishing, William F Da Silva, aka Takimoto Kozaburo Memoir.
- ・SJC 生徒データベース (シャミナード修道院所蔵資料より作成)

自治体の海外都市提携関係資料

- ・San Diego History Center Public Record Collection, San Diego Sister Society
- ・Torrance Museum , Kashiwa File

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計8件)

大西比呂志、国際都市横浜とアジア、

『アジア共同体への信頼醸成に何が
必要か』、ミネルヴァ書房、2016、
215-231
大西比呂志、セントジョセフ学院と
横浜の外国人社会、『横浜と外国人社
会』、日本経済評論社、2015、29-56
大西比呂志、解説、『横浜ヤンキー』
明石書房、2015、380-389
大西比呂志、アメリカ女性下士官が
撮した占領下の横浜、国際交流研究
(フェリス女学院大学) 査読無、第
16号、2014、151-168
大西比呂志、横浜山手インターナシ
ヨナル・スクールの人々、季刊横濱、
査読無、第41号、2013、73-75
大西比呂志、戦後自治体の海外都市
提携とアメリカ、市史研究横須賀、
査読無、11号、2012、17-32
大西比呂志、ジェニー・カイパーに
ついての研究ノート、フェリス女学
院資料室紀要あゆみ、査読無、66号、
2012、20-31
大西比呂志、横浜とカリフォルニア、
季刊横濱、査読無、第37号、2012、
75-77

〔学会発表〕(計1件)

大西比呂志、占領史研究と地域、2013年6
月28日、国民大学日本学研究所・東京大学
大学院情報学環現代韓国研究センター共同
ワークショップ

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

(代表) 大西 比呂志 (ONISHI, Hiroshi)
フェリス女学院大学国際交流学部 教授
研究者番号：70201978

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()